

○竹原 広実\* 國嶋 道子\*\*

(\*京都ノートルダム女大、\*\*京都女大短大)

目的：和室空間の構成要素の視覚的効果を明らかにすることを目的としてシミュレーションを用いた実験を行い、色彩を中心とした和室空間を構成する要因の視覚的効果について検討を行った。

方法：和室の1/10縮尺模型を作成しその写真を撮影した後、それをコンピュータに取り込み、画像処理を用いて色彩を中心とした要因を変化させて74種の評価対象を作成した。評価は被験者41名にTFT画面に呈示される評価対象について7段階SD法により23の形容詞対について評定させる方法を用いた。得られたデータは因子分析、数量化理論第1類などを用いて分析を行った。

結果：再現性の検討の結果30のデータが得られた。因子分析の結果、快適感因子、重厚感因子、すっきり感因子、暖かさ因子の4因子が析出された。そして工法については真壁は大壁より心地よさが得られやすく、大壁はすっきりした雰囲気になりやすいということが、また各要因の色彩については壁や襖の色彩に関わらず線材に黒を用いることにより空間の重厚感が増す。さらに襖の明度を線材と同じ、もしくは線材より高くすることによって快適感が得られやすく、線材が他の要因よりも明度が高くなると快適感は得られにくいということが明らかとなった。